

展勝地風土記

Vol.18

平成28年10月28日
展勝地開園100周年記念事業準備委員会
問い合わせ／北上市都市整備部都市計画課 ☎72-8279

展勝地開園100周年記念事業準備委員会、100周年に向けた取り組みとして、より多くの市民に展勝地を知っていただくため、展勝地に関するさまざまな情報を紹介しています。歴史的なこと、地理的なこと、自然環境のこと、そして、展勝地に深く関わった人々や展勝地を題材にした美術・文芸作品などについて紹介していきます。今回は29年1月27日に発行します。

山河花満ちる

公益財団法人日本さくらの会 事務局長 浅田 信行

縁あって「展勝地」の新たな展開に係わる機会を得ました。そして、今度は寄稿させていただくことになりました。

私が北上の展勝地を知ることになったのは、(公財)日本さくらの会に勤めることになったからです。今では、日本さくらの会の樹木匠として「さくら」を専門に扱っているように皆さまには思われていますが、日本さくらの会以前は、さくらの木は育てていましたが、各地の名木・名所については全く知りませんでした。

それが、日本さくらの会に勤めて各地の名所・名木を見る機会に恵まれ、それぞれの地で、その「さくら」に係わる人々と接しているうち、日本人の「さくら」との係りが非常に深いものであると思うようになりまし

た。そして、そのような各地のさくらの中で、特筆すべきところが「北上の展勝地」です。

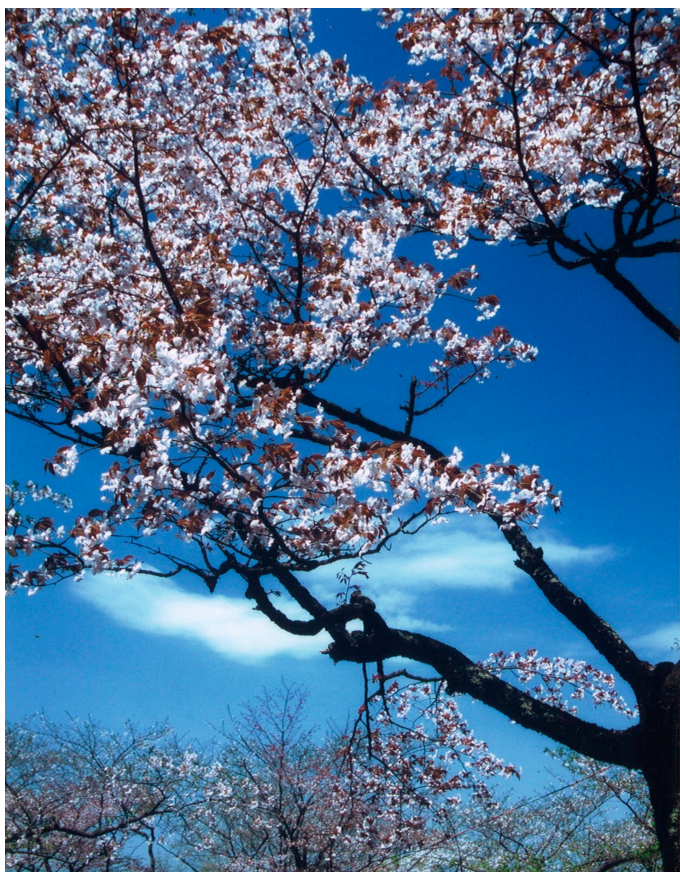
なぜ「展勝地」が特別なのかと自問自答してみると、まず、今から百年も前に日本に、いや世界に誇れる景観の場所を創ろうと企案されたことです。

そして、名所を創ろうとすることは、それこそ非常に多くの地で試みられています。なかなかうまくゆかず断念されているところが多い中、「北上の展勝地」は百年の間、節目節目の年ごとに先人の想いを再確認されながら、その時代の人々ができることを企画、実行し、また、実現できなかったことは次の時代の人々が再考し、更なる活動を行うというように、根気強く、長く「展勝地」を創り続ける努力を継続されています。それこそが特筆、賞賛され

るところだと思っております。

今、この文を書くにあたって改めて「展勝地」についての記録などを拝見しました。「展勝地」について全てを理解することは無理ですが、それ

でもこの北上川と和賀川の合流部、そして国見山、陣ヶ丘などを含む所に「展勝地」を創ろうと考えられた沢藤幸治氏、その着想に最も敬意と賞賛を表したいと思えます。



開園当初に植えた陣ヶ丘の「小金井桜」



開園当初の幼木の桜並木

沢藤氏が、この地が後にさまざまな歴史を持つ地であることを承知されていたのかどうか私には分かりませんが、この地が『展勝地八〇年』に記されているとおり、まさしく「山河 花満ちる」場所として最適だと考えられたのだろうと想像します。

そして、個人的な望みを許していただけるならば、初期の陣ヶ丘のように、四方に視界の開けた景観を保全しながら、また、歴史を感じさ



展勝地入口の桜大路から陣ヶ丘・国見山へ

せる風景を維持しながら、次の世代、更にその次の世代と、これまでの百年のように想いと活動を継続し

て「展勝地」を発展させ、人類の宝として保全していただきたいと思いません。

筆者プロフィール

昭和22年岡山県生まれ・東京都在住。

大学卒業後、民間会社で緑化設計工事などに携わる。

平成8年に樹木医資格を取得し、同年7月、財団法人日本さくらの会事務局に調査担当として入局。平成21年10月、事務局長に就任し現在に至る。

平成11年の「小金井公園緑の基礎調査その2」で桜品種同定調査、平成9年～14年の「荒川さくら街道・桜守事業」では植栽・手入れ指導に携わる。当市では展勝地公園開園90周年事業に関わり、100周年記念準備委員会で植栽する新しい公園の桜樹種選定委員を務める。

現在は、千代田区「区の花連絡会」委員、「花回廊ようざんろーど」をつくる会顧問、木更津市鎌足桜保存会相談役などを務める。